

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 前期課程における教育職員専修免許取得等や高度専門職志望者に対応した探究型の教育方法の開発を進める。	→従来の大学院における教育方法に加えて、高度専門職志望者に対応した教育方法の試行・検討・普及の進捗状況。	C
2. 後期課程（一部前期課程を含む）における外国語による研究発表支援のための教育方法上の工夫、体制の構築を行う。	→外国語による研究発表を想定した教育方法やスタッフ確保などの支援制度開発の進捗状況。	A
3. 大学院教育にふさわしいシラバスのあり方を検討し、改善を進める。	→大学院教育の目標にみあったシラバスのあり方の試行・検討・普及の進捗状況。	C
4. 修士論文・博士論文執筆にむけた見通しを持ちうる履修・研究計画作成のための支援策を開発する。	→大学院生が論文執筆までの見通しをもった研究計画を策定し、各年度の実施状況の自己点検・自己評価をなすような年次計画書・報告書開発の進捗状況。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

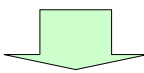
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.3.1	本小項目に関連して上記目標2を掲げたが、総合心理学専攻心理学領域において大学院GP枠を用いて英語プレゼンテーション指導のための特任助教を雇用し、指導プログラムの開発を行うとともに、実際の指導に着手している。また、英語英米文学領域でもネイティブ教員の採用を決定したことから、当該領域でも来年度以降、ネイティブによる英語プレゼンテーション指導体制の構築が可能となった。また、フランス語フランス文学領域にはすでにネイティブ教員がおり、必要な指導を行う条件が整えられた。
☆ 小項目6.3.2	全学仕様のオンライン・シラバスを作成・公開している。学士課程とは異なる大学院にふさわしいシラバスのあり方についての検討が必要であるとして上記の目標3を掲げたが、現時点では未着手である。
☆ 小項目6.3.3	従来から適切な成績評価、単位認定が実施されており、それを引き続き継続している。また大学院では、適切な研究指導とその前提としての学生自身による見通しを持った研究計画作成が重要であることから、上記の目標4を設定した。それに関しては、ベーツ特別奨学金受給者で第一種奨学金受給継続を希望する者を対象に、大学院生による当該年度の研究活動に関する自己評価および教員によるそれへの点検・評価のための書式を作成して、研究報告書およびその評価についての試行を行っているところである。
☆ 小項目6.3.4	大学院生を対象とした授業評価を独自に実施してその結果を研究科委員会で報告し、研究科における授業・研究指導上の課題についての共通認識の形成に努めている。そこで特に問題になるのは、校舎利用条件などの施設問題であり、授業・研究指導の改善についての問題は多くない。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	心理科学領域特任助教の積極的な指導により、当該領域の博士後期課程学生が相当数（7月末見込みで19件）、国際学会における発表に挑戦している。
小項目6.3.2	全教員がシラバスを記載し、それに基づいた教育を行っている。記載内容は、大学院における教育が学生の参加によるフレキシブルなあり方を必要とすることからそれに対応したものとなっており、上記通り、大学院にふさわしいシラバスの形式についての検討の必要が示唆されている。
★小項目6.3.3	大学院生による研究報告書は年度末の提出であり、現時点では効果の測定は出来ない。
小項目6.3.4	特になし。
その他	



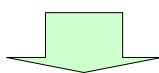
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.3.1	心理科学領域では引き続き、特任助教を雇用し、ネイティブによる指導を継続する。
小項目6.3.2	上記の通り、大学院にふさわしいシラバスのあり方についての検討を要する。
★小項目6.3.3	年度末に提出された研究報告書と教員による評価に照らした検討を実施する。
小項目6.3.4	特になし。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.3.1	現在は、国際学会での発表頻度の高い心理科学領域で限定的に行っているが、対象領域の拡大についての検討が必要である。英米文学英語学領域においては、ネイティブ教員着任後の体制構築が必要である。
小項目6.3.2	上記の通り、現状の把握と合わせて、他大学大学院の事例も踏まえつつ、学士課程とは異なる大学院にふさわしいシラバスのあり方を検討する。その際、資格関連科目と研究指導的科目との差異など、科目の特質に配慮した検討が求められる。
★小項目6.3.3	今年度末に提出されるベーズ特別奨学金受給学生の研究報告書の記載状況を検討したうえで、全学生を対象とした年次研究報告書の必要性やあり方についての検討を加える
小項目6.3.4	特になし。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.3.1	国際学会等での発表機会の有無とそれに向けた指導体制のあり方について、領域毎の特質を考慮しながら検討を進める。
小項目6.3.2	上記の検討を進める。
★小項目6.3.3	上記の検討を進める。
小項目6.3.4	特になし。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

- 目標2について前進が見られることは評価できます。
- 目標1、3には早急な対応が望まれます。

【学内委員】

- 前期課程における教育職員専修免許取得等や高度専門職志望者に対応した探究型の教育方法の開発を進めるということが目標として提示されていますが、かかる目標の可及的速やかな実現が望まれます。このような問題がこれからますます重要となることが予想されるからです。また、大学院教育にふさわしいシラバスのあり方の検討および改善が必要であることはいうまでもありません。
- 目標への取り組みを評価します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
